

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	附属大塚特別支援学校
-----	------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-2	視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の活用	・タブレット PCや音声ペンの活用により子どもの状態に合わせて効果的に視聴覚教材や教育機器を活用することができた。その成果をHPや書籍、学術団体（日本特殊教育学会等への発表を積極的におこなうこともできた。
1-1-4	個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの個に応じた指導の方法等の状況	・「個別教育計画」作成のプロセスを再度みなおし、より「個」に応じた教育実践ができるように工夫したことにより、個別的な指導や自立活動の取り組みを入れ、事例研究にも取り組むことができた。
1-1-7	コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	・校内分掌の教材・教具開発担当と情報教育担当を中心にICTツールの活用について研修を重ね、校内に伝達することができた。 ・積極的に企業や他の大学の研究者と交流し、プレゼンテーションソフトやアプリの開発研究に努めることができた。
1-1-8	学習指導要領等の基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導に関する状況	・出版した書籍「特別支援教育とっておきのレシピ」を活用した授業実践を積み重ねることができた。 ・「個別教育計画」の進化と深化に向けて全校をあげて取り組み、その過程や成果を学会や研究協議会で発信した。
1-2-3	児童生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの状況	「個別教育計画」は年間2回評価と見直しを行う。目標の設定から評価の内容を見直し、より明確な評価につなげることができた。
1-2-9	教育課程の編成・実施の管理の状況	教務委員会を中心に教育課程編成の研究を推進するとともに、授業時数の管理に努めることができた。授業時数の記録や確認を行う。
2-1-5	適切な勤労観・職業観など主体的に進路を選択する能力・態度の育成のための指導（キャリア教育等）の状況	中学部・高等部では生活学習、現場実習、進路指導を通してキャリア教育に関わる内容を整理し、具体的に学習させることができた。
2-1-8	職場体験活動の実施の状況	中3段階での職場見学、実習先見学、高等部段階各学年で現場実習（1～2週間）を実施した。
3-1-1	学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制の整備の状況	課題や問題が生じた場合に、速やかに運営委員会や人権委員会等で情報収集するとともに、特別支援教育校内委員会を開催して、具体的対応策を協議し、全校体制で解決に向かうことができた。
3-1-4	保護者や地域社会、関係機関等との連携協力の状況	・就学支援や就労支援を通して、保護者とともに地域の資源について理解を深め、連携体制を構築し、協力して取り組むことができた。 ・卒業生の組織である桐親会とPTAの共催バザー（10月）を通じて地域との交流を図ることができた。
3-2-4	豊かな人間関係づくりに向けた指導の状況	本校の学習内容表「関係の形成と集団参加」領域の内容と「個別教育計画」に基づく授業作りを通して、豊かな人間関係作りを日々の授業実践で指導を積み重ねることができた。
3-2-9	問題行動の発生状況	問題となる行動について、その発生状況を把握し、丁寧なエピソード記録、観察を行うとともに応用行動分析などの手法を用いて分析した。その上で適切な指導に努め、事例検討会において情報共有と具体的方策の検討を行った。
4-1-1	児童生徒を対象とする保健（薬物乱用防止、心のケア等を含む）に関する体制整備や指導・相談の実施の状況	毎日の幼児児童生徒の心と身体の健康管理について、養護教諭、教員をはじめしっかりと連携して管理にあたることができた。
5-1-3	法定の学校安全計画や、学校防災計画等の作成・実施、体制整備の状況	年10回のミニ避難訓練、年3回の避難訓練の実施した。救命法講習、防犯訓練も開催した。その上で学校防災・防犯マニュアルに基づき、幼児児童生徒及び教職員の安全衛生とともに危機管理体制を更に強化することができた。

5-1-5	安全点検（通学路の安全点検を含む）や、教職員・児童生徒の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	通学路、校内の安全点検を学期ごとに1回点検するなど、危険箇所等の報告は随時行い、安全指導の行事を年間計画に従って進めることができた。
6-1-1	特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	幼稚部から高等部まで、各部署で取り組んできた交流及び共同学習を継続し発展させることができた。
7-1-3	職員会議等の運営状況	会議設定時間の見直し、開始・終了時刻の徹底に取り組むことができた。また提案議題を精選し、話し合うべきことはしっかりとおこなうなど会議の効率化につとめることができた。
7-1-7	学校運営のための諸事務等の情報化の状況	情報推進委員会の指導のもとに、教育情報を一元管理するシステムを構築、整備することに努めた。
8-1-1	授業研究の継続的实施など、授業改善の取組の状況	研究授業・公開授業を学校行事に位置づけて、各部署とも学期に1回の研究授業を実施し、授業改善に努力した。
8-1-4	校内研修・校外研修の実施・参加状況	運営委員会と研究部が年間を見通して派遣計画を作成し、大学・教育局の研修会参加、研究校の協議会参加などの研修を推進した。
9-1-6	全教職員が評価に関与しているかなど体制の状況	・自己評価については、5月に1度、12月末に1度の年2回行い、目標と評価の循環をめざして行うことをはじめとおこなった。 ・学校評価に関しては、12月に全教職員に対して行い、次年度の改善が円滑に進むように努めた。その結果を受け、1月より教職員全体で改善に向けた具体的対応策を検討した。
9-2-1	「外部アンケート等」を除き、保護者その他の学校の関係者による主体的・能動的な評価が年に1回以上定期的に実施されているかなど実施の状況	保護者アンケートと学校評議員アンケートをそれぞれ年1回実施した。
9-2-3	学校関係者評価のための組織（学校関係者評価委員会のほか、学校評議員や学校運営協議会等の既存の組織を活用する場合を含む）の構成等の状況	年2回学校評議員会を開催し外部評価者の意見を学校運営に生かすよう努めた。また本校PTAとの懇談会（サロンド大塚）での話し合いの結果も活用するように努めた。
10-1-1	学校に関する様々な情報の提供状況	ホームページの刷新及び更新頻度を上げるとともに、学校要覧、各部案内パンフレット等の刷新を図ることができた。
10-1-2	学校公開の実施の状況	幼稚部から高等部まで各部署、年3回以上の学校説明会を開催し、公開することができた。
11-1-3	学校開放などの実施状況	月3回以上、4つの外部団体わたり施設使用に協力した。
12-1-3	大学、附属学校教育局と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備（耐震化、アスベスト対策を含む）の状況	校内の施設の管理、利便性等など、教育局、大学施設部との連携を強化し、学校生活が円滑かつ安全に進められるよう努力した。
14-1-3	先導的教育研究	・大学と連携し、知的障害教育におけるオリンピック・パラリンピック教育について先駆的取組を発信することができた。 ・大学の人工知能研究室と連携し、プロジェクト・マッピングを活用したミライの体育館研究に継続して取り組んだ。